

自然災害情報室コラム

みなさんこんにちは。自然災害情報室の内山庄一郎です。自然災害情報室は、防災科研のつくば本所、研究交流棟の2階にあり、所外の方もご利用いただけます。自然災害情報室といえば、フロアの半分を占める閉架書庫と、そこに収まる10万冊の文献資料をイメージされるかもしれませんが、こうした図書資料に関する業務のウェイトは、実は業務全体の2割ほどしかありません。今日は、残りの8割を紹介し、自然災害情報室の全貌を紹介します！

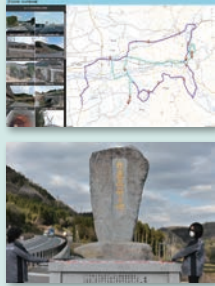


今回のテーマ

「自然災害情報室のお仕事」

🔍 災害経年調査

自然災害が発生すると専門部署の研究員が現地調査を行います。自然災害情報室ではさらに、地域の土地・自然の性質に応じた被害の実態、その後の復旧復興の状況やそれらの地域差を、時間と位置情報を持つ写真として時系列で記録するために、数年おきに現地調査を実施しています。復旧・復興による街並みには人々の意志が反映され、地域によって異なる景観が形作られてゆく。このため、長期的な被災地の景観とその変化を記録しています。



📖 公的災害対応資料のアーカイブ

自然災害の発生直後から、多数の公共機関が被害や避難所開設などの災害対応情報を発信します。こうした膨大で短時間で急激に発せられる情報のアーカイブに取り組んでいます。これらを時系列で丹念に調べることができれば、災害対応の変化について研究の進展が期待できます。災害直後の情報や資料は、短時間で更新、消去される場合も多いため、こうした泡沫的に生じる情報や資料を体系的に収集・整理する取り組みを行なっています。



📄 機関リポジトリ「NIED-IR」

防災科研の刊行物やデータなど、研究成果に関するデジタル情報発信の要となる仕組みが「防災科研機関リポジトリ(NIED-IR)」です。自然災害情報室ではこの運用を担当しており、将来的には防災科研の設立後に刊行された全ての刊行物をデジタル化し、メタデータ(書誌情報)を作成してNIED-IRに格納・提供することを目指して取り組んでいます。機関リポジトリはWebサイトから誰でも閲覧できます。

<https://nied-ir.bosai.go.jp/>

🌐 災害アーカイブ機関連携

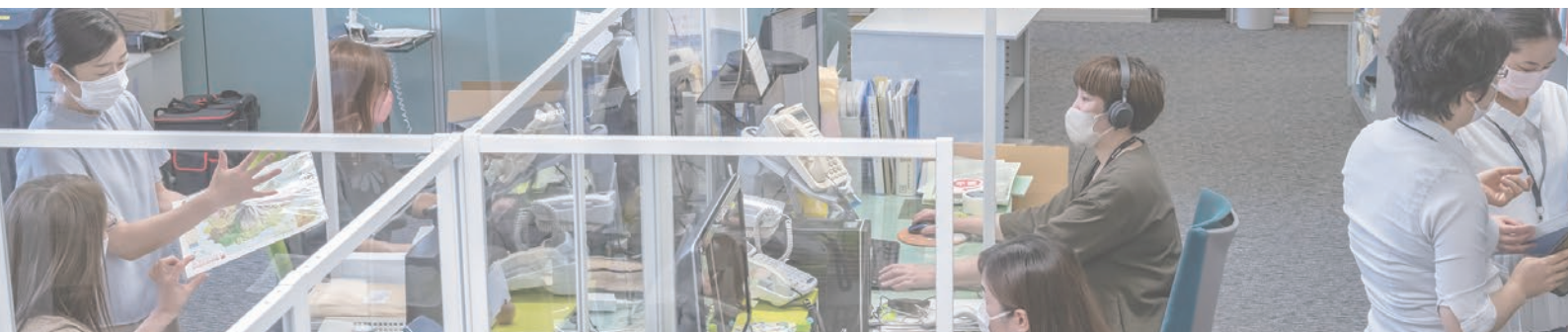
自然災害情報室に限らず、アーカイブ機関でコレクションできる資料の種類と物量には限界があります。そこで、災害・防災に関する資料をアーカイブしている全国の図書館等の機関同士で、お互いの保有する資料を貸借できることが理想です。また、そうした資料を活用した住民向けの防災基礎力向上のイベントを共同で開催するなど、日常的な情報交換を通じて顔の見える連携体制を構築する取り組みを行なっています。

📑 編集委員会事務局

防災科学技術研究所編集委員会の事務局と、研究者から投稿された防災科研の主要3誌(研究報告、主要災害調査、研究資料)の印刷用版下原稿の編集業務およびオンライン公開業務を行なっています。主要3誌については、直近の6年間だけでも167編、総計8,491ページに及ぶ出版物を編集・作成してきました。

📖 図書資料委員会事務局

左記に加えて、防災科学技術研究所図書資料委員会の事務局も担当しています。所外の方には目に触れる機会は少ない活動ですが、所内の研究者に対して、研究所内で閲覧できる論文(洋雑誌・和雑誌)の閲覧環境の構築・運用を通して、研究を支援しています。



自然災害情報室では、これまで自然災害・防災に関する専門図書館を目指してきましたが、ここまで紹介してきたように、今後は扱う対象をアナログの図書からデジタルの現地写真や災害対応資料へと拡張し、これらを積極的・能動的に収集する体制の実現に向けて機能を強化していきます。みなさまのご利用、ご支援をよろしくお願いいたします！